

京都アリーナ（仮称）の整備 （向日町競輪場再整備）について

令和6年6月7日
令和6年6月9日



本日の説明会について

平素は向日町競輪場の良好な運営に、皆様からのご理解のもと多大なご協力をいただき大変感謝申し上げます。

本日は、京都アリーナ（仮称）の整備など、向日町競輪場再整備について皆様にご案内いたします。

京都府では、この整備をきっかけとしてスポーツや経済振興、多世代交流や地域ブランドの向上など、向日市をはじめとする周辺地域との協働により地域活性化につながる、まちづくりとなるよう取り組んでまいります。

説明項目

1. 整備の概要について

- ① 屋内スポーツ施設の整備について
- ② 向日町競輪場の再整備（全体）について
- ③ 京都アリーナ（仮称）はこのような施設を目指します。
- ④ 京都アリーナ（仮称）の整備について

2. 解体工事等のお知らせ

再整備における解体及び埋蔵文化財調査について

3. 整備をきっかけとした「まちづくり」について

地域一体となった「まちづくり」

1. 整備の概要について

1-①. 屋内スポーツ施設の整備について

京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会
第1次提言（平成23年1月）【抜粋】

京都府のスポーツ施設の状況をみると、昭和63年の京都国体をピークに整備が進められて以降、新たな拠点整備も行われておらず、老朽化が進行している。

- 市民スポーツ施設の整備を図るため、府民ニーズを踏まえた府立のスポーツ施設の総合的リニューアル
- 現在の府立のスポーツ施設では対応できないスポーツ施設の重点的整備

府の整備実績

サンガスタジアムby KYOCERA（令和元年）＜亀岡市＞
木下アカデミー京都アイスアリーナ（令和元年）＜宇治市＞
京都トレーニングセンター（平成28年）＜京丹波町＞

屋内スポーツ施設の現状

- 人口比における施設数は都道府県の中で下位
- 府内での国際大会の開催実績が増加していない
- 近隣府県等でアリーナの新設が進んでいることから、今後の大会誘致が一層困難となる恐れ
- 屋内スポーツの各競技団体から新設に係る緊急要望が提出

屋内スポーツ施設の整備へ

京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会
計3回（令和5年8月～11月）、候補地視察

- 子どもがスポーツに触れることは情操教育でも大切
- 文化の発信拠点として活用すれば、若者にも魅力的

1-②. 向日町競輪場の再整備（全体）について

【向日町競輪場基本構想を策定（令和5年12月）】

<現状・課題>

- ・収益面 → 現在、車券売上は高い伸び率で推移
～インターネット投票、ミッドナイト競輪などの開催～
- ・施設、設備面 → 施設の建物全体が老朽化
～昭和61年以降、大規模改修なし～
- ・サービス面 → 来場者にとって利便性が低い状況
～屋外の観戦エリアや投票施設が多く、映像提供・空調設備等の整備も不十分～

<新たな競輪場コンセプト>

- ① 安全・快適で、コンパクトな競輪場
～ 来場者・利用者が安全・快適に利用でき、効率的な運営が行える競輪場～
- ② 自転車競技関係者や自転車愛好家が集う競輪場
～ 自転車を通じた、スポーツ振興・人材育成・交流の拠点となる競輪場～
- ③ 地域と共生する競輪場
～ 競輪非開催時にも多くの府民が訪れ、交流・賑わいの拠点となる競輪場～

<再整備の方向性>

- ・インターネット投票を通じて競輪に関心を持つようになった新しいファン層が実際に来場し、レースそのものをリアルで楽しめる観戦環境の整備
- ・従来からのファンも楽しめる、映像提供、空調設備等が整った、車券投票を主たる目的とする施設の整備
- ・来場者数を踏まえた施設・機能の集約化
- ・余剰スペースの活用

競輪開催の場としての機能だけでなく多目的・複合的な機能を併せ持った、地域の交流・賑わいの拠点となる施設へと転換

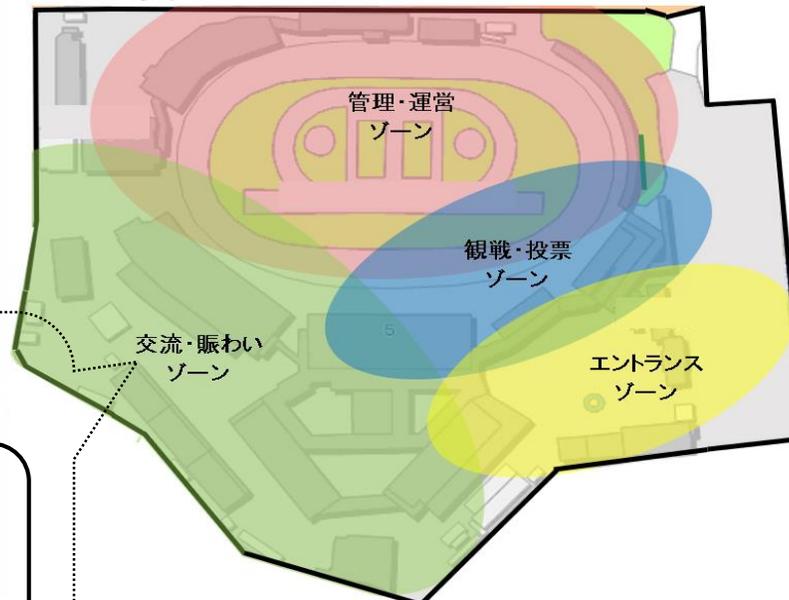
- レジャーや憩いの場
- スポーツ活動の推進
- 地域防災の拠点

具体的には

- ・競輪施設との相乗効果
- ・賑わいの創出

府内のスポーツ施設の状況など踏まえ、**屋内スポーツ施設**として活用

<ゾーニングのイメージ>



向日町競輪場の敷地

エントランスゾーン	競輪場敷地の玄関口。来場者を迎えるためのサービスを提供	
競輪開催エリア	管理・運営ゾーン	競輪運営のために、施行者（京都府）、選手、競技関係者に必要となる場所
	観戦・投票ゾーン	来場者がレース観戦・投票を楽しむための場所。来場者へ快適な観戦・投票環境を提供
余剰スペース	交流・賑わいゾーン	レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災の拠点などの多目的・複合的な機能を持った、交流・賑わいの拠点となるゾーン

1-③. 京都アリーナ（仮称）は このような施設を目指します。

1. 府民のレジャーや憩いの場、防災施設などの多目的・複合的な機能を併せ持った、地域に賑わいを作り出す施設
2. イベントのない日も、日常的に府民が憩い、スポーツに親しめる施設
3. 世界的認知度の高い京都において、様々なスポーツ事業や文化事業の拠点として認知される施設として、地域の活性化に貢献できる施設
4. 競輪施設を含む敷地一体が総合スポーツ及び多機能施設として、地域との一体化を図り、地域に賑わいをもたらす施設
5. 安全・安心なまちづくりに対応した施設

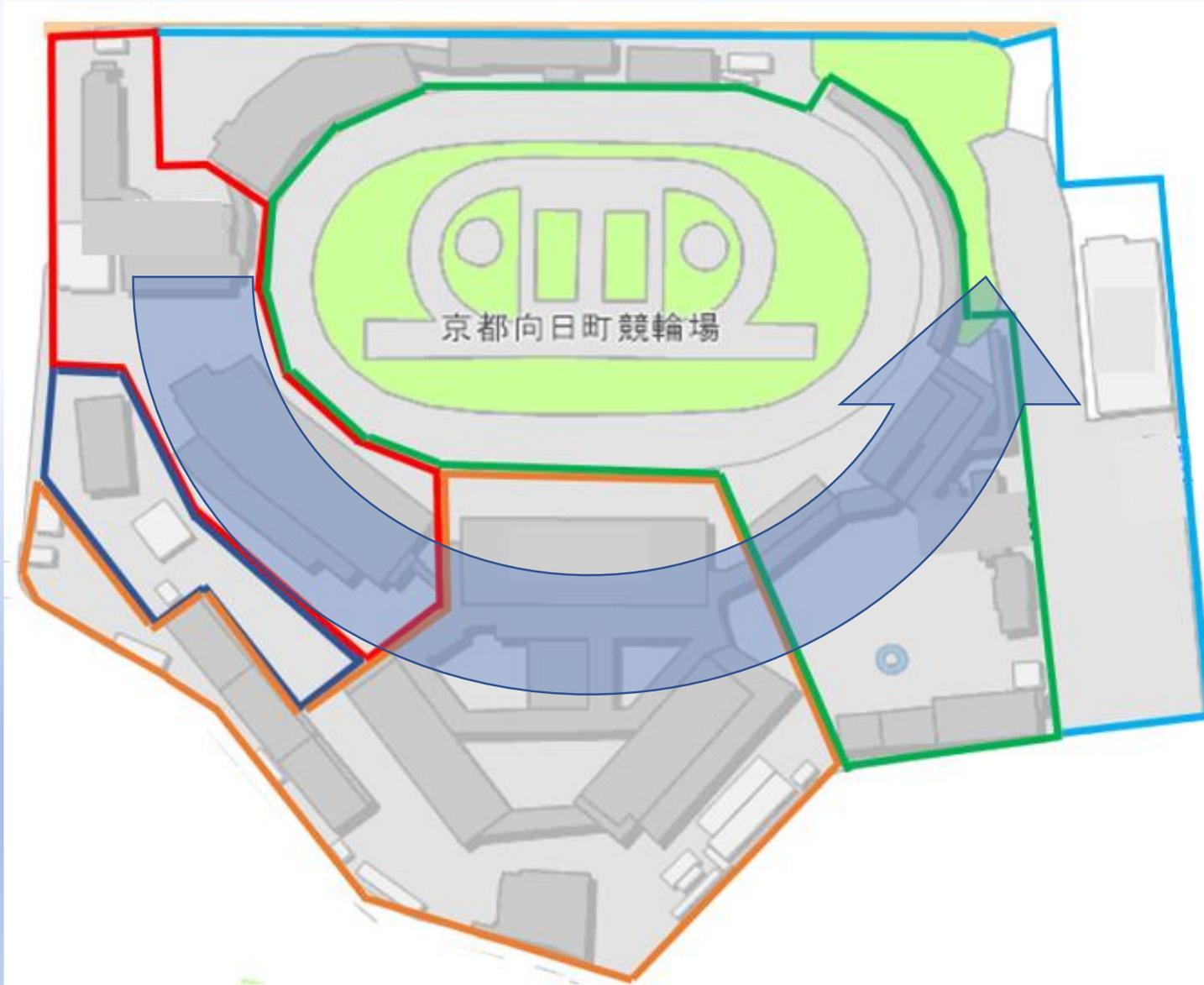
1-④. 京都アリーナ(仮称)の整備について

アリーナの機能・規模

- アジア大会や世界大会のアジア予選などの国際大会や、プロリーグなどの観戦機会が提供できます。
スポーツ開催時（バスケ・バレー） 8千人以上収容
プロリーグのある、屋内スポーツのチームがホームアリーナとして使用
- インターハイや国民スポーツ大会の府予選決勝など、府民が目指す大会が開催できます。
- 文化芸術（音楽コンサート）などに関連するイベント、ビジネス（コンベンション）など、多用途に対応します。

2. 解体工事等のお知らせ

再整備における解体工事等について



敷地西側から順次、解体工事を行います。
(令和6年度～)
※併せて埋蔵文化財調査も実施

順次、アリーナ・競輪場を整備します。

- アリーナ：令和10年秋頃開業予定
- 競輪場：令和11年春頃開業予定

3. 整備をきっかけとした 「まちづくり」について

地域一体となった「まちづくり」

- より良いアリーナを整備するとともに、アリーナ整備をきっかけとした地域活性化を図るためには、周辺地域のまちづくりとの連動が必要と考えています。
- 京都府と向日市をはじめとする周辺市町と、アリーナを核としたまちづくりの検討を協働で行うため、地域と一体となり、「こういうまちづくりがしたい」とのお声を集めてまいります。

〔向日町競輪場周辺地域まちづくり協働検討費：100万円〕
〔令和6年度6月府議会に提案予定〕

最後に

平素は向日町競輪場の良好な運営に、皆様からのご理解のもと多大なご協力をいただき大変感謝申し上げます。

京都アリーナ（仮称）の整備など、向日町競輪場再整備については皆様の御理解のもと進めますので、よろしく願いいたします。

